

教科	科目	単位数	学年	集団
国語	現代の国語	2	1年	特進コース

使用教科書	副教材等
『探求 現代の国語』(桐原書店)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新国語総合ガイド 四訂版(京都書房)</li> <li>・級別漢字学習(東京法令出版)</li> <li>・国語表現ナビ(浜島書店)</li> </ul>

<p><b>科目の目標</b></p> <p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
--

<b>評価の観点とその趣旨</b>		
① 知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	
② 思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	
③ 主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	
<b>評価方法</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容への取り組み</li> <li>・課題、提出物の内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りの記述</li> <li>・定期テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発問への解答</li> <li>・小テスト</li> </ul>

学習計画				評価の観点		
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	①	②	③
4	構成を工夫しながら話す	読書は必要か?	読書の意義や必要性について自分の考えを持ち、話の構成や展開を工夫しながら話し合いができる。		○	○
5	構成を工夫しながら書く	言葉の力	本文の読み取りをもとに、構成を工夫しながら、自分の考えを文章にまとめることができる。	○	○	
6	文章の構成を捉えながら読む	評論解析A	評論の基本的な読み解き方を習得し、論理構造を把握した上で筆者の考えの核心を理解する。	○	○	
7	表現を工夫しながら話し合う	読む	自らの経験について、相手に伝わるよう表現を工夫しながら話し合いができる。		○	○
9	書いた文章を評価する	問いの立て方とオリジナルティ	自ら問いを立てて文章を書き、本文で示された条件に照らして適当なものであるか検討することができる。	○	○	
10	自ら設定した題材をもとに書く	アリュージョン、老兵の夢と闇	自ら題材を設定し、筆者の姿勢を参考にしながら、資料を調べたうえで、レポートにまとめることができる。			○
11	論理の展開を意識しながら読む	評論解析B	評論の基本的な読み解き方を習得し、論理展開を意識しながら筆者の主要な見解をつかむ。	○	○	
	よりよい聞き方を検討する	わかろうとする姿勢	筆者の主張を読み取ったうえで、よりよい聞き方を検討する。		○	○
12	表現を工夫しながら書く	目の見えない人は世界をどう見ているのか	相手に伝わる表現を工夫しながら書き、互いに評価し合うことができる。		○	○
	形式に応じて話す	AIの判断	話し合いを通じてグループ内で共通の理解を得られるよう、進行のしかたを工夫している。	○	○	
1	複数の文章を比較しながら読む	評論解析C	評論の基本的な読み解き方を習得し、論理構造を把握した上で二つの文章を読み、その論旨を比較して考えを深める。	○	○	
2	構成や表現を工夫しながら書く	新聞記事からバリアフリーを考える	テーマに関する事例をもとに、成果物としてまとめることができる。		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
国語	言語文化	2	1年	1年特進コース

使用教科書	副教材等
『探求 言語文化』(桐原書店)	・新国語総合ガイド 四訂版(京都書房) ・読解を大切に体系古典文法(数研出版)

科目の目標
<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる ようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての 自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。
② 思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容への取り組み</li> <li>・振り返りの記述</li> <li>・発問への解答</li> <li>・課題、提出物の内容</li> <li>・定期テスト</li> <li>・小テスト</li> </ul>

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5	自分のものの見方を深めながら読む	説話 ・児のそら寝 ・検非違使忠明のこと ・大江山	説話を通して作者が伝えようとしていることを考え、自分の意見を述べる。	○	○	○
6 7	自分のものの見方を深めながら読む	故事成語 ・推敲 ・漁夫の利 ・塞翁馬	場面と登場人物の言動を整理しながら、登場人物の心情を想像し、自分の考えを述べる。	○	○	○
9	作品の成立した背景を掴みながら読む	近代の小説 ・羅生門	翻案の元となった説話と「羅生門」とを読み比べ、その設定や表現の相違点から各作品の主題を理解し、芥川龍之介の創作性についての確に捉える。	○	○	○
10	構成・展開を踏まえて的確に読む	随筆と日記 ・徒然草 ・土佐日記	表現や古典文法の理解を参考に、作者の思想や感情を的確に読み取る。	○	○	○
11	表現や形式を踏まえて的確に読む	詩文 ・絶句 ・律詩	漢詩の形式や特徴の理解を参考に、作者の思想や感情を的確に読み取る。	○	○	○
11	文章の見方・考え方をもとに、内容を解釈しながら読む	思想 ・論語 ・孟子	各章の内容を踏まえ、儒家の理想としていた学問のあり方について考察する。	○	○	○
12	自分の体験や思いが効果的に伝わるよう書く	近代の短歌・俳句	短歌や俳句における多様な表現技法を理解し、その効果を生かした短歌や俳句を作る。		○	○
1	表現や形式を踏まえて的確に読む	和歌	勅撰和歌集について、解説や評論などを読んで調べ、学んだことをまとめたり発表したりする。	○	○	○
	構成・展開を踏まえて的確に読む	物語 ・伊勢物語	登場人物の関係や物語の展開に注意し、内容を正確に読み取る。	○	○	○
2	構成・展開を踏まえて的確に読む	史伝 ・鶏鳴狗盗 ・臥薪嘗胆	登場人物の関係や句法の知識をもとに、登場人物や話の筋を正確に読み取る。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
地理歴史	地理総合	2	1年	特進コース

使用教科書	副教材等
地理総合 世界に学び地域へつなぐ・基本地図帳	新編フォトグラフィア・地理総合ワークブック

科目の目標
社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	知識:地理に関する諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。 技能:地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる能力を身に付けるようにする。
② 思考・判断・表現	地理に関する事象の意味・意義、特色や相互の関連を、位置・分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
③ 主体的に学習に取り組む態度	地理に関する諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。
評価方法	
・学習内容への取り組み    ・定期テスト    ・発問評価    ・振り返りの内容 ・課題、提出物の内容    ・対話的な学習に対する取り組み    ・小テスト	

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期中間テスト	地図とGISの活用	球面上の世界	地球上での位置、太陽高度の変化、緯度経度のしくみ、時差の計算について理解できる。 球体としての地球の観点から、地球上の位置や時差のしくみを捉え、説明できる。 球体としての地球の把握に向け意欲的に探究し、作業や考察に取り組むことができる。	○		
		日本の位置と領域	日本の領土問題について歴史的背景と空間的広がりを理解できる。 日本の位置と領域について世界的視野から捉え、日本の領域をめぐる問題を考察できる。 日本の領域に関する問題とともに考えることができる。	○	○	
		国内や国家間の結びつき	人・モノ・情報の結びつきに関する知識と統計資料から特徴を見出す技能を身につける。 複数の統計地図を結びつけ、世界の結びつきや偏りについて考察したことを説明できる。 統計資料を意欲的に読み取り、その表現に意欲的に取り組むことができる。	○	○	○
		暮らしのなかの地図とGIS	インターネット上のGISの機能を利用し、地理空間情報を活用できる。 身近な地図について、目的により表現方法に違いがあることが判断できる。 GISの作業に意欲的に取り組み、GISで作成した地図から地域の特徴を分析しようとする。	○	○	○
一学期期末テスト	地理的環境の特色	地形と生活文化	地形の知識を身につけ、世界的視野から地形の分布の特徴を捉えることができる。 地形の特徴について、写真、地形図などから捉え、人間生活との関連を考察できる。 地形図や分布図、写真、模式図の読み取りに意欲的に取り組むことができる。	○	○	○
		気候と生活文化	雨温図や写真から情報を抽出し、各気候と植生の対応や、それらが関連した人々の生活の特徴を読み取り、整理できる。 写真などの資料をもとに、各気候により景観が異なることを捉え、農業や生活への影響を考察できる。 雨温図や写真の判読を通じて、世界各地の気候や生活文化の対応について意欲的に探究できる。	○	○	○
		産業と生活文化	世界の視野からみた産業の特徴と分布を概観できる。 自然環境が産業の形成に関わっていることを資料をもとに考察できる。 産業が発達し続けていることを、時事的話題とともに意欲的に捉えようとする。	○	○	○
		宗教・言語と生活文化	世界の多様性を理解し、異文化を尊重する姿勢が重要であることを理解しようとする。 生活と宗教の関わりについて地域性や歴史的背景をもとに捉え、資料をもとに考察できる。 難民と移民の問題構造を調べ、難民問題の解決策を意欲的に探究できる。	○	○	○
二学期中間テスト	世界各地の生活文化	アフリカ	生活文化を地形や気候と関連づけ、農業と食文化の関連について理解できる。 地形、気候、歴史的背景とともに生活文化の多様性を考察できる。 食文化や生活の工夫を調べ、多様な自然環境の広がりとの対応を見出し、探究できる。	○	○	○
		ASEAN諸国	多民族社会を構成する地域的な特徴を捉え、生活文化対応や経済の変化を整理できる。 ASEAN諸国を例に主題図や写真から言語・宗教の観点で特徴を見出すことができる。 ASEANにおける経済成長と経済格差について意欲的に探究できる。 中国や韓国を例に経済発展が生活文化に与えた影響について理解できる。	○	○	○

フ ス ト		東アジア	中国や韓国の工業の発達に伴う影響について、資料をもとに考察できる。 身の回りの中国や韓国の商品を調べ、その経済成長と課題について探究できる。		<input type="radio"/>	
		ラテンアメリカ	資料から開発により生じているラテンアメリカの課題を読み取ることができる。 図版と写真から、自然環境と生活文化の共通性と異質性を開発の歴史から考察できる。 自然環境と生活文化の相互の関連を捉え、開発の背景について意欲的に探究できる。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
二 学 期 期 末 テ ス ト	地 球 的 課 題 と 国 際 協 力	地球環境問題	環境問題の現状を捉え、原因や影響を図解して整理できる。	<input type="radio"/>		
			地球環境問題を資料をもとにまとめ、持続可能な社会の実現に向けた提案ができる。 地球環境問題について意欲的に探究し、どのような行動ができるかを追究できる。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
		資源・エネルギー問題	主題図から資源の分布が偏在していることを理解できる。	<input type="radio"/>		
			今後必要な鉱物やエネルギーの利用について提案できる。 資源の持続可能な利用について追究できる。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
		人口・食料問題	人口資料をもとにした図版を読み取り分析することができる。	<input type="radio"/>		
			日本の人口問題についての提言を他国と比較しながら考察できる。 他国の事例を参考にして日本と比較しながら人口問題について意欲的に探究できる。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
		居住・都市問題	都市問題と都市計画が行われた事例から問題の対策例を整理できる。	<input type="radio"/>		
			人口集中によって生じる諸問題を資料をもとに考察し、解決の方策や課題を提案できる。 途上国の都市問題について、国際協力の立場で課題解決に結びつけることができる。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
学 年 末 テ ス ト	生 活 圏 の 諸 課 題	日本の自然災害と防災	地形図やハザードマップを活用し、防災と避難行動について考察する技能を身につけることができる。	<input type="radio"/>		
			自らの生活圏の防災について、資料から適切に判断し、課題と避難行動を協議できる。 災害発生時の自助・共助・公助をふまえ、身近な地域で発生が予想される場面を想定して、意欲的に対策を検討できる。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
		生活圏の諸課題と地域調査	統計資料を収集し、それを主題図に表現する方法を身につけることができる。	<input type="radio"/>		
			調査で得られた結果を、主題図や表などに整理できる。 意欲的に主題図やグラフなどを資料を作成できる。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

教科	科目	単位数	学年	集団
地理歴史	歴史総合	2	1年	特進コース

使用教科書	副教材等
詳解歴史総合(東書)	明解 歴史総合図説 シンフォニア(帝国書院)

<p>科目の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解できるようにする。</li> <li>近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察できるようにする。</li> <li>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする。</li> </ul>
---

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解できる。
② 思考・判断・表現	歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論することができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を持つようとしている。

評価方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容への取り組み</li> <li>発問評価</li> <li>課題、提出物の内容</li> <li>小テスト</li> <li>定期テスト</li> <li>振り返りの内容</li> <li>対話的な学びに対する取り組み</li> </ul>

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期 中間テスト	第1章 近代化と私たち	近代化への問い	近代国家・社会の形成について様々な側面から考察する		○	○
		結びつく世界と日本開国	18世紀・19世紀における諸地域間関係を理解する。	○		
一学期 期末テスト	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち	国民国家と明治維新	近代的な政治や国際関係のしくみを理解する。	○		
		第一次世界大戦と大衆社会	第一次世界大戦はなぜ起こり、国際秩序はどのように変化したのか考察する。		○	○
二学期 中間テスト	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち	経済危機と第二次世界大戦	人類はなぜ二度目の対戦へ向かったのかを考察する。		○	○
二学期 期末テスト	第3章 グローバル化と私たち	グローバル化への問い	大戦後の社会の形成について様々な側面を考察する。		○	○
		冷戦と世界経済	両陣営の対立が世界の政治・経済にどのような影響を与えたか理解する。	○		
学年 末テスト	第3章 グローバル化と私たち	世界秩序の変容と日本	グローバル化の進展と問題点について理解する。	○		
		現代的な諸課題の形成と展望	持続可能な社会をどのように実現するのか考察する。		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
数学	数学 I・数学A	5	1年	特進コース

使用教科書	副教材等
数研出版 高等学校 数学 I・数学A	数研出版 4プロセス 数学 I + A

科目の目標
<p>(1)数と式、図形と計量、2次関数、データの分析、図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に着ける。</p> <p>(2)命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて変形する力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力、図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。</p> <p>(3)数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	数と式、図形と計量、2次関数、データの分析、図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に着ける。
② 思考・判断・表現	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて変形することができる。図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現することができる。関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察することができる。不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断することができる。数学と人間の活動との関わりに着目し事象に数学の構造を見だし、数理的に考察することができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。

評価方法
<p>知識・技能の評価:テスト、小テスト、レポート課題の点数をもとに評価する。</p> <p>思考・判断・表現の評価:テスト、小テストの点数、レポート課題の点数をもとに評価する。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度:知識・技能や思考・判断・表現の評価をふまえながら、テストの点数、授業内でのレポートへの取り組み方をもとに評価する。</p>

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	数と式		二次の展開公式及び因数分解の公式の理解を深める。	○		○
5			不等式の解の意味や不等式の性質について理解する。	○		○
	2次関数		不等式の性質を基に一次方程式を解く方法を考察する。		○	○
6			様々な事象を数学的に捉え、一次不等式を問題解決に活用する。		○	○
	論理と集合		二次関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。	○		○
9			二次関数の式とグラフの関係について、多面的に考察する。		○	○
	場合の数と確率		2つの数量の関係に着目し、様々な事象を数学的に捉え、問題を解決し、その過程を振り返って数学的な特徴や他の事象との関係を考察する。		○	○
10			二次不等式の解を二次関数のグラフをもとに求める。	○		○
	図形の性質		集合と命題に関する基本的な概念を理解する。	○		○
11			集合の考えを用いて論理的に考察し、簡単な命題を証明する。		○	○
	図形と計量		集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解する。	○		○
12			順列及び組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求める。	○		○
	データの分析		確率の意味や基本的な法則について理解を深め、確率や期待値を求める。	○		○
1			事象に着目し、場合の数や確率を求める方法を多面的に考察する。		○	○
	データの分析		三角形や円、空間図形に関する基本的な性質について理解する。	○		○
2			図形の間にある関係や性質に着目し新たな性質を見だし、論理的に考察する。		○	○
	データの分析		鋭角の三角比の意味と相互関係について理解すること。	○		○
1			三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鈍角の三角比の値を求める。		○	○
	データの分析		正弦定理や余弦定理を用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求める。	○		○
2			様々な事象を数学的に捉え、問題を解決し、その過程を振り返って数学的な特徴		○	○
	データの分析		データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する。		○	○
			分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその用い方を理解する。	○		○
	データの分析		情報機器を用いてデータやグラフを整理し、基本的な統計量を求める。	○		○
			目的に応じてデータを収集・分析し、データの傾向・特徴を把握する。		○	○

		具体的な事象において仮設検定の考え方を理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
		不確実な事象の起こりやすさを、実験を基に判断し、批判的に考察する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	物理基礎	2	1年	特進コース

使用教科書	副教材等
新編 物理基礎(数研出版)	新課程 物理基礎学習ノート(数研出版)

<p>科目の目標</p> <p>物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けることができる。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。</p> <p>(3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度をもつことができる。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>物体の運動と様々なエネルギーについて理解することができる。</li> <li>実験に関して、必要な観察や基本的な技能を身につけることができる。</li> </ul>
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質の運動や種々の現象に関して課題を発見し、エネルギーの変化に着目して解決の方法を思考し、判断するとともに、それら表現することができる。</li> </ul>
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質の運動やその変化に関心をもつことができる。</li> <li>日常生活と学習事項の関連性に対し、疑問をもつことができる。</li> </ul>

評価方法
<p>知識・技能: 定期テスト、小テスト、授業プリント、ノート等</p> <p>思考・判断・表現: 授業プリント、グループワークの取組等</p> <p>主体的に学習に取り組む態度: 授業振り返りシート、課題や提出物の取組状況等</p>

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期中間テスト	物体の運動とエネルギー	運動の表し方 物理量の測定と扱い方 運動の表し方 直線運動の加速度	<p>物体の運動の表し方を理解し、直線運動における加速度の求め方を身につけている。</p> <p>直線上で運動する場合の物体の変位について、速度と加速度の関係を表現することができる。</p> <p>学習事項に対して、日常と結び付けて疑問をもち、解決を図ることができる。</p>	○		○
一学期期末テスト	物体の運動とエネルギー	様々な力とその働き 様々な力 力のつり合い 運動の法則 物体の落下運動	<p>身の周りにある様々な力について、つりあっている場合や運動している倍についてどのようなことが起こるかを考えることができる。</p> <p>物体の運動について、運動の三法則を用いて説明することができる。</p> <p>学習事項に対して、日常と結び付けて疑問をもち、解決を図ることができる。</p>	○	○	○
二学期中間テスト	物体の運動とエネルギー	力学的エネルギー 運動エネルギーと位置エネルギー 力学的エネルギーの保存	<p>各物体についての運動エネルギーと位置エネルギーについて理解することができる。</p> <p>エネルギーの変化を用いて思考し、力学的エネルギーの保存について表現することができる。</p> <p>学習事項に対して、日常と結び付けて疑問をもち、解決を図ることができる。</p>	○	○	○
二学期期末テスト	様々な物理現象とエネルギーの利用	波 波の性質 音と振動 熱 熱と温度 熱の利用	<p>波の性質や熱について理解し、エネルギー変化の考えを用いて求めることができる。</p> <p>波や熱の性質を用いて、日常にある現象について表現することができる。</p> <p>学習事項に対して、日常と結び付けて疑問をもち、解決を図ることができる。</p>	○	○	○
三学期学年末テスト	様々な物理現象とエネルギーの利用	電気 物質と電気抵抗 電気の利用 エネルギーとその利用 物理学が拓く世界	<p>電気の性質や抵抗などの電気回路について理解し、実験を通じて身につけることができる。</p> <p>電気の基本的な知識を用いて、日常に用いられている様々なエネルギーについて思考し、現象について表現することができる。</p> <p>学習事項に対して、日常と結び付けて疑問をもち、解決を図ることができる。</p>	○	○	○



教科	科目	単位数	学年	集団
理科	生物基礎	2	1年	特進コース

使用教科書	副教材等
新編 生物基礎(数研出版)	改訂版 リードLightノート生物基礎 (数研出版)

<p>科目の目標</p> <p>日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を身に付けることを目指す。</p> <p>・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。</p> <p>・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>
---

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。
② 思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしている。
評価方法	
<p>知識・技能: 定期テスト、小テスト、授業プリント、ノート等</p> <p>思考・判断・表現: 授業プリント、グループワークの取組等</p> <p>主体的に学習に取り組む態度: 授業振り返りシート、課題や提出物の取組状況等</p>	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期中間テスト	生物の特徴	生物の多様性と共通性 エネルギーと代謝 呼吸と光合成	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物がもつ共通性について理解している。</li> <li>生命活動にはエネルギーが必要であることを理解できる。</li> <li>さまざまな生物の比較に基づいて、すべての生物に見られる特徴について考え、共通性を見いだすことができる。</li> <li>学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。</li> </ul>	○		○
一学期期末テスト	遺伝子とのはたらき	遺伝情報とDNA 遺伝情報の複製と分配 遺伝情報の発現	<ul style="list-style-type: none"> <li>DNAの構造および塩基の相補性を理解する。</li> <li>体細胞分裂の過程でDNAが複製され、分配されることを理解する。</li> <li>DNAの構造の模式図をもとに、DNAが4種類の塩基からなること、塩基の結合はAとT、GとCの間で起こるという規則性に気づき、説明できる。</li> <li>学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。</li> </ul>	○	○	○
二学期中間テスト	ヒトの体内環境の維持	体内での情報伝達と調節 免疫のはたらき	<ul style="list-style-type: none"> <li>自律神経系と内分泌系が、からだを調節するしくみを理解する。</li> <li>免疫のはたらきを理解する。</li> <li>運動によって心拍数が増加するしくみを考察し、説明できる。</li> <li>学習内容をもとに、病原体に対する免疫のはたらきを考察できる。</li> <li>学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。</li> </ul>	○	○	○
二学期期末テスト	生物の多様性と生態系	植生と遷移 植生の分布とバイオーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解する。</li> <li>世界や日本に見られるさまざまなバイオームの成立条件を理解する。</li> <li>遷移の過程を示した資料をもとに遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し説明できる。</li> <li>学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。</li> </ul>	○	○	○
三学期学年末テスト	生物の多様性と生態系	生態系と生物の多様性 生態系のバランスと保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>生態系がどのように構成されているのかを理解する。</li> <li>生態系保全のために行われている活動を理解する。</li> <li>生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、説明できる。</li> <li>学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。</li> </ul>	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
保健体育	体育	2	1年	1学年

使用教科書	副教材等
	ステップアップ高校スポーツ(大修館書店)

<p>科目の目標</p> <p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p>
---

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動の合理的、計画的な実践を通して、</li> <li>運動の多様性や体力の必要性について理解している。</li> <li>運動が豊かに継続することができるようにするための技能を身に付けている。</li> </ul>
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己や仲間の課題や豊かなスポーツライフを継続するための課題を発見し、</li> <li>合理的、計画的な解決に向けて思考し判断する力を身に付けている。</li> <li>解決の仕方や気付いたこと等について自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けている。</li> </ul>
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動における競争や協働の経験を通して、</li> <li>公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を高めようとしている。</li> <li>健康・安全を確保したり、運動を主体的に取り組もうとしている。</li> </ul>

評価方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>運動の知識・技能の点検、確認、分析(スキルテスト、定期テスト、発表会、学習プリント・ノート等)</li> <li>記述の点検、確認、分析(学習プリント・ノート、グループワーク等)</li> <li>取組状況の観察、確認(グループ活動の姿勢、安全性の確保、授業への取組状況 等)</li> </ul>

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	体づくり運動	体ほぐしの運動 (集団行動、体ほぐし)	集合、整頓、列の増減、方向変換などの仕方を理解し、行動できる。	○		
			定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることを理解できる。	○		
			いろいろな体ほぐしの運動を行うことを通して、気付いたり、仲間と関わりあったりしている。		○	
			集団行動や体ほぐし運動を自主的に取り組むとともに、健康・安全を確保し活動している。			○
5	球技	ネット型	選択した球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、学習した具体例を挙げている。	○		
			役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。	○		
			選択した球技について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。		○	
		ベースボール型	球技の学習に自主的に取り組もうとしている。			○
			身体の軸を安定させてバットを振りぬくことができる。	○		
			移動しながらボールを捕ること、一連の動きでねらった方向へ投げることができる。	○		
	バット操作、ボール操作及びボールを持たないときの動きなどの改善についてについてのポイントを発見している。		○			
	自己やチームの課題の解決に向けて、自己の考えを述べたり相手の話を聞いたりしている。			○		
6	水泳	クロール、平泳ぎ (スタート、ターン)	各種目で用いられる技術の名称やポイントを理解し、それぞれの技術を実践することができる。	○		
			合理的な動きと自己の動きを比較して、成果や改善すべきポイントを見付けることができる。		○	
			自主的に取り組むとともに、事故防止の心得を遵守し健康・安全を確保している。			○
7	体育理論	スポーツの始まりと変換文化としてのスポーツ	スポーツの歴史的発展と多様な変化について理解している。	○		
			多様なかわり方によるスポーツ文化の変容について課題を発見している。		○	
			課題を発見するための意見交換などの学習に自ら進んで取り組んでいる。			○

9	体づくり運動	実生活に生かす運動の計画 (新体力テスト、体力を高める)	運動には体力向上の原則があることを理解し、運動のねらいやバランスを考え、自分にあった運動を計画し取り組むことができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			運動のねらいや体力の程度を踏まえ、自己や仲間の課題に応じた強度、時間、回数、頻度を設定することができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			自主的に取り組むとともに、危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保すること。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10	陸上競技	短距離走	記録の向上につながる動きのポイントを理解し、技術と関連させた運動や練習を継続して行うことができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			合理的なフォームを身に付けることでタイムの短縮を図ることができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			自主的に取り組むとともに、結果を冷静に受け止め、課題解決に向けて、お互いに助け合い、教え合おうとしている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	ハードル走	スタートダッシュからリズムカルにスピードを維持しながらハードルを越えることができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
		ハードルを低く素早く越えながらタイムを短縮したり、競争したりすることができる。自己や仲間の課題について、言葉や文章で表したり、他者に分かりやすく伝えたりしている。自主的に取り組むとともに、結果を冷静に受け止め、課題解決に向けて、お互いに助け合い、教え合おうとしている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
11	球技	ゴール型 (男子)	球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	ダンス	現代的なリズムのダンス (女子)	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。自主的に取り組み、互いに助け合い、教え合おうとしている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			ダンスには、その踊りの特徴と表現の仕方があることを理解している。リズムの取り方や動きの連続のさせ方を組み合わせて、動きに変化を付けて踊ることができる。ダンスの特徴に合わせて、よい動きや表現と自己や仲間の動きや表現を比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間と伝え合い、合意形成を図っている。課題について、互いに助け合い教え合おうとしている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
12	体育理論	オリンピックとパラリンピックの意義 スポーツが経済に及ぼす効果	オリンピズムやオリンピック、パラリンピックの価値について理解している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			スポーツの経済的効果が社会へもたらす影響について、持続可能なスポーツの発展のための課題の解決に向けて、自己の考えを他者に伝えている。現代スポーツの発展についての学習に、主体的に取り組もうとしている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
1	陸上競技	長距離走	自己の体力や技能の程度に合ったペースを維持して走ることができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			記録の向上に有効な練習方法のやり方について、自己の考えを伝えることができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			一人一人の技能の違いに応じた課題に自主的に取り組んでいる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2	球技	ゴール型	選択した球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。自主的に取り組み、互いに助け合い、教え合おうとしている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			ドーピングがなぜスポーツを破壊する行為になるのかを具体的に説明できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2	体育理論	スポーツの高潔さとドーピング スポーツと環境	スポーツの高潔さが環境へもたらす影響について、自己の言葉や文章などを通して他者に伝えている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			スポーツの文化的特性についての学習に、主体的に取り組もうとしている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

教科	科目	単位数	学年	集団
保健体育	保健	1	1年	1学年

使用教科書	副教材等
現代高等保健体育(大修館書店)	現代高等保健体育ノート(大修館書店) 図説現代高等保健体育(大修館書店)

<p>科目の目標</p> <p>保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会と健康について、理解を深めること。</li> <li>・安全な社会生活について、理解を深めるとともに、応急手当を適切にすること。</li> </ul>
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し、判断するとともにそれらを表現することができる。</li> <li>・安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現することができる。</li> </ul>
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の健康やそれを支える環境づくりに関心をもつことができる。</li> <li>・生涯を通じて健康の保持増進や回復を目指す実践力をつけている。</li> </ul>

評価方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識・技能の点検、確認、分析(定期テスト、小テスト、スキルテスト、学習プリント・ノート等)</li> <li>・記述の点検、確認、分析(学習プリント・ノート、グループワーク等)</li> <li>・取組状況の観察、確認(課題レポートやその他提出物等への取組状況、授業への取組状況 等)</li> </ul>

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5 6 7	現代社会と健康	1 健康の考え方と成り立ち 2 私たちの健康のすがた 3 生活習慣病の予防と回復 4 がんの原因と予防 5 がんの治療と回復 6 運動と健康 7 食事と健康 8 休養・睡眠と健康 9 喫煙と健康 10 飲酒と健康	様々な健康の考え方や健康を成り立たせている要因について説明できる。 我が国の健康水準の変化とその背景や現在の健康問題について説明できる。 生活習慣病の種類と要因、一次予防、二次予防について説明できる。 がんの種類や原因、一次予防、二次予防について説明できる。 がんの主な治療法や緩和ケア、検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について説明できる。 健康と運動の関係、目的に応じた健康的な運動の仕方について説明できる。 食事と健康の関係、健康的な食事のとり方について説明できる。 健康と休養の関係及び適切な休養のとり方、健康と睡眠の関係及び健康に良い睡眠のとり方について説明できる。 喫煙者やその周囲の人に起こる害、喫煙対策について個人と社会に分けて説明できる。 飲酒による健康への短期的影響と長期的影響、健康問題に対する個人や社会環境への対策について説明できる。	○	○	
9 10 11 12	現代社会と健康	11 薬物乱用と健康 12 精神疾患の特徴 13 精神疾患の予防 14 精神疾患からの回復 15 現代の感染症 16 感染症の予防 17 性感染症・エイズとその予防 18 健康に関する意思決定・行動選択 19 健康に関する環境づくり	薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響、薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策を説明できる。 精神疾患の例をあげ、発病の要因と主な症状を説明できる。現代社会における精神保健の課題をあげることができる。 精神疾患を予防する方法、精神疾患の早期発見のために必要なことを説明できる。 精神疾患の治療、適切な治療や回復のためにどのような社会環境が必要か説明できる。 感染症とは何かについて潜伏期間や感染力なども含めて説明できる。新興感染症と再興感染症が流行する要因を説明できる。 感染症の予防対策について3原則から例をあげて説明できる。感染症への個人と社会の対策を説明できる。 性感染症・エイズが他の感染症と異なる点について説明できる。予防と対策について個人と社会に分けて例をあげることができる。 健康に関する適切な意思決定・行動選択の際の工夫について説明できる。 社会環境の健康への影響、ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴を説明できる。	○	○	○
1 2	安全な社会生活	2 事故の現状と発生要因 1 安全な社会の形成 3 交通における安全 4 応急手当の意義とその基本 5 日常的な応急手当 6 心肺蘇生法	事故の実態と被害の実態、事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることを説明できる。 安全のために必要な個人の行動、全ての人の安全を確保するために必要な環境整備について説明できる。 交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について説明できる。交通事故における責任を3つに分けて説明できる。 応急手当の意義を説明できる。傷病者を発見した時に、確認・観察するポイントをあげることができる。 日常的な怪我や熱中症の応急手当の手順や方法を説明できる。実際に日常的な怪我や熱中症の応急手当ができる。 心肺蘇生法の方法と手順を説明できる。実際に心肺蘇生法を行うことができる。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
音楽	音楽 I	2	1年	特進・総合コース 選択

使用教科書	副教材等
MOUSA1 教育芸術社	高校生のための 音楽研究ノート

科目の目標
音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

① 知識・技能	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
② 思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことを感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組もうとしている。

評価方法
ア 取り組みの観点    イ 演奏、作品の内容    ウ ワークシート等への記述内容    エ 提出物の内容 アからエを観点別に見取ったものを総合して評価する。

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	美しい日本語で歌詞に込められた思いを伝えられるように歌おう	表現 歌唱 p.10.12.14.15.16	・曲想と音楽の構造や歌詞の関わり合いを理解する。 ・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫することができる。	○	○	○
5	リズムの重なり合いを意識し、音色や強弱を工夫して演奏しよう	表現 器楽 p.30～33 創作	・曲想と音色や奏法との関わり合いを理解するとともに、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、他者との調和を意識して表現することができる。 ・反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくることができる	○	○	○
6	リズムや拍子などを変化させて変奏しよう	表現 創作 p.46.47	・音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、変奏や編曲をする技能を身に付け、自己のイメージをもって作品を作ることができる。	○	○	○
7	表現を工夫してギターを演奏しよう	表現 器楽 p.36～41	・曲想とギターの音色や奏法との関わりを理解する ・曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表すことができる。	○	○	○
9	音楽を織りなす様々な要素に注目して、曲のよさや美しさを探ろう  さまざまな世界の舞台芸術に興味を持ち、日本の伝統音楽の能や謡に親しもう	鑑賞 p.130～137  鑑賞 表現 歌唱 p.66.78.80.82～84	・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解する。 ・曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。 ・我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴を理解する。 ・自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くことができる ・能の音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わり、言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりを理解する。 ・表現形態の特徴を生かして歌うことができる。	○	○	○
10	和楽器に親しみ、演奏に挑戦しよう	表現 器楽 p.88～91	・曲想と楽器の音色や奏法との関わりについて理解する。 ・曲にふさわしい奏法、身体の使い方などを身に付ける。	○	○	○
11	表現を工夫してリコーダーを演奏しよう	表現 器楽 p.60.64	・曲想とリコーダーの音色や奏法との関わりを理解する。 ・曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫することができる。	○	○	○
12	世界の諸民族の音楽(アジア地域を含む)を知ろう	鑑賞 表現 歌唱 p.98～101	・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりを理解する。 ・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技術を生身に付け、歌唱で表すことができる。 ・音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。	○	○	○
1	日本や諸外国の歌曲に親しみ、表現を工夫して独唱しよう	表現 歌唱 p.21.24～26.48～59.76	・曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりを理解する。 ・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって歌唱で表すことができる。			
2	総合芸術としてのオペラを鑑賞し、その魅力を味わおう	鑑賞 表現 歌唱 p.66.72.74.75	・曲想や表現上の効果と音楽の構造、歌詞との関わりについて理解する。 ・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表現することができる。 ・音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解する。 ・曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
美術	美術 I	2	1年	特進・総合コース 選択・美術コース

使用教科書	副教材等
美術1(光村図書)	

<p>科目の目標</p> <p>美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創作活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。
② 思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
評価方法	
ア・創作への取り組み イ・仕事の丁寧さ、作品の内容 ウ・アイデアスケッチやワークシートへの記述内容 エ・提出物の内容 アからエ これらを観点別に見取り総合的に評価する。	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	身近なものを描く	A表現 絵画 p.6	身近にあるものを見つめ直し、描く方法や材料を工夫してあらわすことができる。	○	○	○
5						
6	レコードジャケットデザイン	A表現 デザイン p.48 B鑑賞	伝えたいイメージをもとに、画面構成や配色、曲やアーティストのイメージにあったロゴデザインを考え、トータルデザインをすることができる。	○	○	○
7						
9	墨で描く	A表現 絵画(日本美術) p.12	日本に古くから画材として用いられてきた墨による表現の豊かさを感じとり、墨の特性を生かして作品を描くことができる。	○	○	○
10	鑑賞パブロ・ピカソ	B鑑賞 p.44	ピカソの生涯や作品を知り、新たな表現を追求する姿勢を感じ取ることができる。	○		○
11	校内撮影会	A表現 映像メディア表現 p.66	表情や動きに注目したり、被写体との距離感を意識したりして、身近な人の姿を写真であらわすことができる。映像メディアの特性を踏まえ、色光や視点、動きなどの映像表現の視覚的な要素の働きについて考え、創造的な表現の構想を練ることができる。	○	○	○
12	イラストレーション	A絵画 表現	撮影した写真を参考にして人物をイラスト化する。イラストレーションの表現の特性を生かし、形や色彩を単純化や省略、協調をし画面構成を考え、創造的な表現をすることができる。	○	○	○
1	凧作り(アジアの伝統文化や娯楽の中にある美。)アジアの美術、中国・韓国の書画及び東南アジアの文様を参考に描く。	A表現 絵画 工芸 工作	和紙の着色→竹ひごでの組み立て→凧揚げ を授業の一環で行う。和紙に墨で描いた経験を生かし素材を効果的に生かし表現できる。材料の特性を知り正確に組み立てができる。日本及びアジアの伝統と文化を学び、日本及びアジアなど諸外国の美術に対する見方や、感じ方を深め、日本の美術文化を発信していくことができる。	○	○	○
2	デッサン 目と手を描く。	A表現 絵画 デッサン p.80	対象物をよく観察し、2BとHBの鉛筆を使い分け影と光を表現することができる。理想の構図とポーズを考察し関節を意識して描くことができる。目のガラス質をよく観察し細部まで描くことができる。	○	○	○
3						

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	書道 I	2	1年	特進・総合コース 選択

使用教科書	副教材等
書 I (光村図書)	

<p>科目の目標</p> <p>書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
---

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	書の表現の方法や形式、多様性などについて理解している。書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的・創造的に表現するための基礎的な技能を身に付け表している。
② 思考・判断・表現	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。

評価方法
ワークシートの記入内容、作品鑑賞カードの記入内容、発表の内容、作品、授業に取り組む姿勢などをもとに、総合的に評価する。

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	書道入門	書写から書道へ	書写で学習した知識・技能の確認。臨書を通して技法を学び、表現に生かす学習方法について理解する。青少年書道展の作品に生かす。	○		○
5	漢字の書 篆書	篆刻(篆書)	印の用途や押印したときの表現効果を考慮して作品を構想する。	○	○	○
6	漢字の書 楷書	唐の四大家に学ぶ楷書の基本	唐の四大家とその代表作について基礎的な知識を身につける。	○	○	
7	漢字の書 行書	蘭亭序・風信帖(行書)	蘭亭序・風信帖を通して行書の主な特徴を理解する。	○	○	
9	漢字の書 草書	真草千文字(草書)	真草千文字・曹全碑の臨書や鑑賞を通して草書・隸書の特徴を見つけ、表現の広がりを楽しむ。		○	○
10	漢字の書 隸書	曹全碑(隸書)			○	○
11	漢字の書 創作	古典を生かした創作	古典の学習を通して修得した知識を生かし、工夫して表現する。	○	○	○
12	仮名の書	万葉仮名、草仮名、女手、片仮名の代表的な古典 蓬萊切・高野切第三種	仮名の成立過程と字源について理解する。 仮名の基本的な筆使いと、平仮名と変体仮名の使い分けによる表現効果を理解する。	○	○	
1	仮名の書 創作	古筆を生かした創作	古筆の学習を通して習得した知識を生かし、工夫して表現する。	○	○	○
2	漢字仮名交じりの書	伝達から表現へ 心に響く言葉を書く	漢字仮名交じり文の成立について理解する。鑑賞、批評し合うことで、自分の表現へ生かす。 文字の大きさ、漢字の書体(楷書・行書)、仮名の種類(平仮名・片仮名)について、調和させて表現することができる。		○	○
3	硬筆	生活の中の書	生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
外国語(英語)	英語コミュニケーション I	3	1年	特進コース

使用教科書	副教材等
ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION I	ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION I 本文学習ノート Database 3300 基本英単語・熟語

<p>科目の目標</p> <p>(1)聞くこと 日常的话题について、話される語句や文、情報量において多くの支援を活用すれば必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。</p> <p>(2)話すこと[やりとり] 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝えあったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。</p> <p>話すこと[発表] 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。</p> <p>(3)読むこと 日常的话题について、使用する語句や文、情報量において多くの支援を活用すれば必要な情報を読み取り書き手の意図を把握することができるようにする。</p> <p>(4)書くこと 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。</p>
---

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めている。</li> <li>・聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。</li> </ul>
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する。</li> <li>・これらを活用して、適切に表現したり伝え合ったりする。</li> </ul>
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</li> </ul>
評価方法	
<p>ペーパーテスト</p> <p>パフォーマンステスト</p>	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	新聞・雑誌記事 コマーシャル	Unit 1・2	新聞記事を読んだり、コマーシャルを聞いたりして概要を把握することができる。	○	○	
			記事や案内文を自分の言葉でリテリングすることができる。		○	○
6	Eメール 案内・校内放送	Unit 3	ブログの記事やEメールを読み、概要を把握することができる。	○	○	
			Eメールをフォーマルな形で書くことができる。		○	○
9	パンフレット ガイド案内	Unit 4	博物館のパンフレットや展示パネル、ガイドの解説から要点を理解することができる。	○	○	
			ある言葉や文化について調べ、時系列にまとめて伝え、それについて話し合うことができる。		○	○
11	ウェブ記事 スピーチ	Unit 5・8	ウェブの記事を読み、要点を読み取ることができる。	○	○	
			自分の体験談について、起承転結を意識してわかりやすく話し、やり取りをすることができる。		○	○
1	伝記 プレゼンテーション エッセイ	Unit 6・7	人物の経歴について読んだり聞いたりして、要点を理解することができる。	○	○	
			ある人物の経歴を紹介するプレゼンテーションを作成し、それについてやり取りをすることができる。		○	○



教科	科目	単位数	学年	集団
外国語	論理・表現 I	2	1年	特進コース

使用教科書	副教材等
EARTHRISE English Logic and Expression I Standard	EARTHRISE Practical English Grammar and Expressions EARTHRISE English Grammar in 24 Stages

科目の目標
<p>(1) 話すこと[やりとり] 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝えあったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。</p> <p>(2) 話すこと[発表] 日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。</p> <p>(3) 書くこと 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	英語の音声・語彙・表現・言語の働きなどの理解を深め、それらの知識を実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面に応じて適切に活用する。
② 思考・判断・表現	目的・場面・状況に応じて、英語で情報や考えなどの概要や要点、話し手や書き手の意図などを活用しながら、適切に表現したり伝え合う。
③ 主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に、英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価方法	
ペーパーテスト パフォーマンステスト	

学習計画				
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点 ① ② ③
4	自己紹介 他者の紹介	Lesson1 Introduce Yourself to Your Class	・自分自身のことについて、SNSプロフィールを作成し、他者と正確に伝え合うことができる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
5	予定・紹介	Lesson2 How Do You Spend Your Weekends? Lesson3 Where Did You Go on Vacation?	・過去の出来事や自己の経験について、ポスター等を用いて、発表することができる。 ・パートナーを誘うe-mailを作成し、その招待に応じる返信ができる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
		パフォーマンステスト	身の周りのことについて紹介(発表)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
6	能力・許可・義務・謝罪 道案内	Lesson4 How Can I Get There?	・道案内を、正確に行うことができる。 ・他者に対しての謝罪の文章を、助動詞を用いて、書くことができる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
		Lesson5 Would You Like to Come with Me? Lesson6 Something Really Japanese	・紹介・依頼や勧誘をする場面を、ロールプレイを通して、やりとりすることができる。 ・自分が後悔したことについて、助動詞を用いて、文章を書くことができる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
7		パフォーマンステスト	Show and Tell	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
9	目的・希望	Lesson7 Do You Do Any Volunteer Activities?	・将来の夢や希望について、その理由を含めて、伝え合うことができる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	提案	Lesson8 Let's Enjoy School Life!	・学校を紹介する、スピーチを行い、提案をすることができる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
10	調査・分析	Lesson9 Are You Eco-Friendly?	・環境保護について調査し、グループで結果をグラフにまとめ、分析結果を発表することができる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
		パフォーマンステスト	グラフを使用し、調査結果についてグループで説明。(発表)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
11	インタビュー 情報発信 意見・考えを述べる	Lesson10 What Sport Do You Like?	・他者の情報や意向について、インタビューを通して、聞き取ることができる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
		Lesson11 That's New to Me!	・読んだり、聞いたり、調べたりして得た情報について、紹介したり、自分の意見を書くことができる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
12	人物や物について説明する。	Lesson12 Which Nobel Prize Winner Do You Admire Most? Lesson13 I'm interested in history.	・自身の興味・関心をもった人物や建造物について紹介する文を、理由を添えて書くことができる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
		パフォーマンステスト	プレゼンテーション(発表)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
1	比較・分析	Lesson14 Various Countries around the World	・資料を示し、その特徴や傾向について説明するパラグラフを書くことができる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
2	興味・関心 将来の夢	Lesson15 What job are you interested in?	・興味・関心のある職業や将来の夢について、エッセイを書くことができる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
3		パフォーマンステスト	発表(スピーチ)【個人】	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

教科	科目	単位数	学年	集団
家庭	家庭基礎	2	1年	1学年

使用教科書	副教材等
家庭基礎 自立・共生・創造(東京書籍)	スーパーライブビュー(東京書籍)

<b>科目の目標</b> 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 (2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。
--

<b>評価の観点とその趣旨</b>	
① 知識・技能	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解をしているとともに、それらに係る技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
<b>評価方法</b>	
・授業に対する姿勢(発表の内容やプリントへの取り組み状況) ・提出物(家庭生活に関する課題) ・ホームプロジェクト(レポートや製作物) ・実習・実技(技能・製作物や作品) ・定期試験(学習内容の理解・定着度)	

<b>学習計画</b>						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	第1章 生涯を見通す	1 人生を展望する	自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。	○	○	○
		2 目標を持って生きる	生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を描く。	○	○	○
5	第2章 人生をつくる	1 人生をつくる	生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。	○	○	○
		2 家族・家庭を見つめる	よりよい家庭生活を実現するために、家族・家庭と私たちの生活の結び付きを理解する。	○	○	○
		3 これからの家庭生活と社会	誰もがよりよい生活を創造できるようにどのような社会を実現すればよいか、考えて実践しようとする。	○	○	○
6	第4章 超高齢社会を共に生きる	1 超高齢・大衆長寿社会の到来	超高齢社会の背景を理解する。	○	○	○
		2 高齢者の心身の特徴	加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。	○	○	○
		3 これからの超高齢社会	高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。	○	○	○
7	第5章 共に生き、共に支える	1 私たちの生活と福祉	誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。	○	○	○
		2 社会保障の考え方	共に支え合う社会の実現に向けての支援体制、支え合いの構造について理解する。	○	○	○
		3 共に生きる	命に対する責任や次世代を育む責任を持つために、性と生殖に関する健康について理解する。	○	○	○
8	第3章 子どもと共に育つ	1 命を育む	子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。	○	○	○
		2 子どもの育つ力を知る	子どもの生活習慣や衣食住について理解する。	○	○	○
		3 子どもと関わる	自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。	○	○	○
9	第3章 子どもと共に育つ	4 子どもとの触れ合いから学ぶ	子どもや子育てに対する理解を深めるために、保育体験をする。	○	○	○
		5 これからの保育環境	子どもが健やかに育つ社会をどのように実現すればよいか、考えて実践しようとする。	○	○	○
		第7章 衣生活をつくる	1被服の役割を考える 2被服を入手する 3被服を管理する 4衣生活の文化と知恵 5これからの衣生活	私たちが被服を着用するに至った、社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。 健康・快適・安全な生活を送るために被服に施されている工夫について理解する。 実践できる力を身につけるために、被服の洗濯や保管方法を科学的に理解する。 日本の衣生活の変遷や日本の衣文化に込められる知恵や技術について知る。 全ての人が健康・安全・快適な衣生活を営むためのユニバーサルデザインの被服について理解を深める。	○	○
10	第8章 住生活をつくる	1住生活の変遷と住居の機能	私たちの毎日の生活を支える生活拠点となる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。	○	○	○
		2安全で快適な住生活の計画	防災、日照、換気などに関する知識を深め、快適かつ健康で安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。	○	○	○
		3住生活の文化と知恵	気候や風土の違い、時代の変化によって、大きく異なる世界や日本のさまざまな住文化について理解する。	○	○	○
11	第9章 経済生活を営む	4これからの住生活	持続可能な住居や自動・互助・共助・公助に基づく地域の担い手になるために、住生活を理解する。	○	○	○
		1情報の収集・比較と意思決定	自立した責任ある消費者として、意思決定の重要性と情報の活用について理解する。	○	○	○
		2購入・支払いのルールと方法	販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある行動が取れるよう、契約の重要性について理解する。	○	○	○
12	第10章 持続可能な生活を営む	3消費者の権利と責任	消費者の権利と責任の変遷を踏まえて、どうすれば消費者市民社会が実現できるか考え実践しようとする。	○	○	○
		4生涯の経済生活を見通す	生涯安定的な経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。	○	○	○
		5これからの経済生活	どうすれば持続可能な経済成長が実現できるか考えて実践しようとする。	○	○	○
1	第6章 食生活をつくる	1持続可能な社会を目指して	持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫する。	○	○	○
		1食生活の課題について考える	生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を振り返る環境の変化などを理解する。	○	○	○
		2食事と栄養・食品	栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深める。	○	○	○
2	第11章 これからの生活を創造する	3食生活の選択と安全	食の安全を確保するために、食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギーの仕組みに関する知識を身につける。	○	○	○
		4生涯の健康を見通した食事計画	「健康にいい、栄養バランスのよい食事」とはどのようなものかを理解する。	○	○	○
		5調理の基礎	配膳やマナーに関心を持つ。	○	○	○
2	第11章 これからの生活を創造する	6食生活の文化と知恵	郷土食や行事食などのよいところを継承・創造するために、日本の食文化の特徴を確認する。	○	○	○
		7これからの食生活	安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考える。	○	○	○
2	第11章 これからの生活を創造する	8これからの食生活	人生の目標を達成し、自分らしい生活が実現できるよう、各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようになる。	○	○	○
		1生活をデザインする		○	○	○